

# 地方企業にロボ導入熱

## 人手不足、自動化で解消

【新潟】新潟県電子機械工業会（新潟県長岡市、0258・21・5400）は、県内企業によるロボット活用を後押しするための研究会を立ち上げた。初会合では定員を上回る参加者が集まり、関係者の関心の高さを裏付けた。一方で、導入による効果や他社での事例に関する情報を求める意見が相次いだ。情報不足を補う取り組みを通じて導入機運を一段と高めることが今後の課題となりそうだ。



小型ロボットの演技に見入る研究会参加者ら

新潟県電子機械工業会の新潟県内の製造、足が深刻化していること、卸、情報サービス業などが背景にある。こうした企業で構成していた課題はあらゆる業の業界団体。2017年度は新規事業として相次ぎ研究会を立ち上げ、参加企業間の情報交換を通じてさまざまな課題の解決を図ろうとしている。その一つが「ロボット導入検討研究会」。同研究会を発足させた

### 「費用や事例知りたい」

### 新潟県電子機械工業会が研究会

「売り手市場のため、新卒の学生の採用は特に厳しい」と、難航する人材確保の現状に焦る。さまざまな効果が見込める。まずどのように入定を得た学生は、より知名度が高い企業を選択する傾向があるという。実際、研究会初会合後、同工業会が参加者状況下で、いかに生産効率を維持・向上するかと。解決につながる手法のひとつとして、ロボットに対する注目度が県内企業の中であらためて高まっている。もともとロボット活用を進める上で、知識習得など事前の準備が欠かせない。研究会初会合で講演したワイ・イー・データ（埼玉県入間市）メカトロソリユーション事業部の安藤弥技術部長は「ロボットを使うことでさまざまも参加してもらい、知恵を出し合って新たなビジネスや技術の創出につなげてもらえたい」と話している。

研究会は今後、メンバーを固定し、お互いの「顔」が見える状態で情報交換を進めていく方針。同工業会の本会では「費用対効果」を重視し、お互いの「顔」が見える状態